

遠距離介護が、見えてくる子世代の親

パオッコ活動現場より⑦

NPO法人パオッコ ～離れて暮らす親のケアを考える会～ 太田差恵子

私たちNPO法人パオッコでは2007年から財団法人住友生命社会福祉事業団と共催で「遠距離介護セミナー」を開催しています。2010年は11月に大阪と東京で行いました。大盛會に終了し、ほっとしながらこの原稿を書いています。

東京会場には男性72人、女性140人の計212人が参加くださいました。一般向けの介護セミナーとしては、かなり男性参加率が高いといえるのではないのでしょうか。そうです、介護は女性だけの問題ではありません。長男、長女がふつうになっている社会で、性別に関係なく親の介護は大きな課題になってきています。

実は東京会場の定員は200人に設定していました。ウェブサイトになどで募集をかけたところ、反響が大きく、開催の1か月前前に参加申し込みの受け付けを終了。大手新聞社が「告知欄に載せましょう」と言っているのに、すでに満席。NPOとしては、こういうセミナーの開催は広く社会につたえたいのですが、残念ながら告知は見合わせていただいたというのが裏話です。

今回は「これから」遠距離介護になる方にも参加いただきたい、あえて「準備セミナー」と命名。「遠距離介護準備セミナー」どうする!? どうなる!? 離れて暮らす親の介護」。

2部構成で、後半は「特別講演」です。大阪は精神科医の香山リカ氏、東京は東京大学大学院教授の上野千鶴子氏が登壇。両氏の知名度から集客が進んだ面もありますが、参加された方も冒頭から真剣そのもの。

1部は、「体験者と専門家によるお悩み軽減! 遠距離介護アドバーストーク」です。ケアマネジャー、社会保険労務士、行政書士の方と私が、「本音」でトークしました。

介護セミナーのパネリストに社会保険労務士を招くのは、そんなに一般的ではないと思います。が、私は、介護と社会保険労務士というのは、実はとても大きな関係があると考えています。

す。なぜなら、介護をきっかけに仕事を辞める人が増えているから。

パオッコは創立15年を迎えました。この間、親の介護をするためになんの疑問も抱かず、退職したり、転職したりする人たちをたくさんみてきました。もちろん、そのこと自体を悪いことだとは思いません。けれども、親の介護のために仕事を辞めて、どうやって自分の生活を設計していくのでしょうか。いずれは、自分にも老後が訪れます。職場には「介護休業制度」をはじめとする介護を支援する制度は必ず存在します。けれども、多くの人は、そういう存在さえ知りません。また、いま介護をするために仕事を辞めれば退職金や、将来もらえる自分自身の年金額が減ることもシミュレーションしていないケースが目立ちます。

「親のために、とうとう仕事を辞めてしまった」と涙を流す女性にインタビューしたことがあります。彼女は、親を介護するために仕事を辞めて故郷に帰りはない：45%

●コンタクトしたことがある：27%

●今回のセミナーではじめてセミナーの存在を知った：25%

また、親の異変をキャッチするために、親との対話を増やすことの重要性も共有しました。介護に必要なのは「対話」、「情報」、「お金」ではないでしょうか。セミナーの資料として、「遠距離介護行動の3つの柱『対話』『情報』『お金』』という冊子を配布。今回のセミナーのために作成したものです（好評だったので先着500人にプレゼント企画を実施、発送手数料250円要。詳細はパオッコのウェブのトップページこの頁の左上参照をご覧ください）。

経済成長とともに、職場は都会に集中するようになりました。多くの40～50代の人々が、これから、どうやって親を支え、介護していくのかと悩みのなかに

いくことにより、健康状態が悪化するケースも

など、難しい現状があまりあります。

一方、来場者からも、いろいろな「声」が投げかけられました。

「親と同居すると介護保険サビスが制限されてしまう。そのことをケアマネや行政に相談すると『サビス利用の条件は別居』といわれてしまうが、おかしいんじゃないですか?」

登壇のケアマネジャーは困惑気味。「おかしい」という気持ちがあるなか、現場にはそういう実態があることを百も承知されているからです。「最善策を考えたら、ケアマネも、介護事業者も変えることができます」とのアドバイスも出ました。

今回「準備セミナー」としたにもかかわらず、すでに「直面」されている声もあがりました。

「親から『離婚して（実家に帰って）面倒を見るべきだ』といわれてとても辛い」、「親を看ている自分に相対面での優遇が

NPO法人パオッコ
～離れて暮らす親のケアを考える会～

親世代はできることなら生涯、住み慣れた家で住まい続けたいと望み、子世代も仕事や子どもの教育などを考えると、故郷に戻ることは容易ではありません。そんな状況のなか、親の心身に衰えが生じると子世代はどうしたものかと悩みます。

パオッコは「ひとりの経験はきっとみんなの役に立つ」という理念のもと、情報や体験を共有。ぜひ、ホームページに遊びにきてください!

〒113-0033 東京都文京区本郷3-37-8
本郷春木町ビル9F インキュベーションハウス内
ホームページ <http://paokko.org>